

## 令和6年度第4回多治見市子育て支援会議 会議録

会議名	令和6年度第4回多治見市子育て支援会議
日 時	令和7年3月11日（火） 10時00分～12時00分
場 所	多治見市役所 本庁舎 2階大会議室
議 事	
<p>(1)子ども未来プラン令和6年度進捗状況について</p> <p>(2)令和6年度子育て支援事業量・確保実績について</p> <p>(3)教育保育施設・地域型保育事業の令和7年度確保方策について</p> <p>(4)第3期たじみこども未来プランについて</p>	
内 容	
<p>● 挨拶</p> <p>事務局：これより令和6年度第4回多治見市子育て支援会議を開催する。開催にあたり、福祉部長より挨拶を申し上げます。</p> <p>部 長：(あいさつ)</p> <p>事務局：(事務局の紹介)</p> <p style="padding-left: 2em;">会議の成立について、本日、委員19名のうち半数以上の方にご出席いただいているため、多治見市子育て支援会議条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告する。ここからの進行は会長にお願いします。</p> <p>● 議題1</p> <p>事務局：(子ども未来プラン令和6年度進捗状況について 説明)</p> <p>会 長：以上の説明について、質問・意見はあるか。</p> <p style="padding-left: 2em;">(特になし)</p> <p>● 議題2</p> <p>事務局：(令和6年度子育て支援事業量・確保実績について 説明)</p> <p>会 長：以上の説明について、質問・意見はあるか。</p> <p>委 員：令和6年度の病児・病後児保育事業は、見込みが60で実績が0であるが、原因を教えてほしい。</p> <p>事務局：病児・病後児保育については、現在民間事業者で病児保育は1か所、病後児d保育は2か所となっている。医療機関に併設していないため、医者に診断をもらってからしか利用できないという手間から、利用実績がなかなか上がらないのが課題であった。そのため、来年度からはクリニック併設型の病後児保育を新たに開始する。現在公募が終わり、南消防署の近くでクリニックを建設中であり、そちらで病児・病後児事業を市が委託する形で実施予定で</p>	

ある。現在契約前だが、選定までは終えており、早ければ来年度9月以降に事業開始予定となっている。今年度までの実績は少ない状況であるが、来年度9月以降解消されると見込んでいる。

会 長：病児というのは必ず出るにもかかわらず、現状利用がないということは、父母、祖父母を含めた家庭の人が、たとえば保育園で発熱したら迎えに行っているということか。

事務局：アンケート結果によると、保護者のどちらかが仕事を休んで付き添うという回答が現状としては多い。病児保育があれば利用したいという声がある一方、できれば家族で見守りたいという声も非常に多い。可能な限り保護者がいたほうが子どもも安心すると思う。今回新しく導入する医療併設型を、保護者が都合に合わせて利用できるように体制を整えていく。

委 員：病児保育を利用する場合に診断書が必要というのは変わらないのか。診断書なしでも利用可能か。また、料金体系や受け入れ可能人数、申込方法についても教えてほしい。

事務局：申込はWEB上で行う。受け入れは感染症の状況によって異なる。例えば発熱が24時間以内だと危険性があるかどうか考える必要があるが、一般的な保育園が実施している病児保育に比べると、感染症の受け入れの幅は格段に広がるため、最も安全な形で病児・病後児保育を提供できると思う。受け入れは3人まで可能。最大3つの感染症をそれぞれ個別の部屋で対応できるように検討している。開始時刻は8時半で、終わりは17時前後。クリニックの営業時間にもよるが、就業する保護者に最大限配慮した時間帯にする。料金は1日2000円、半日で1000円。詳細はこれからつめていく。

会 長：保育施設で発熱した場合の送迎サービスはあるか。

事務局：送迎サービスは行わない予定である。

会 長：現在保育園や幼稚園では、子どもが発熱した場合どのように対応しているのか。

委 員：発熱があつたら、保護者にまず連絡し状況を知らせる。保護者が迎えに来るまで保育士が常に付き添い、祖父母などほかに頼れる人がいればその人に連絡いただいて来てもらう。

会 長：今後そのような施設ができれば、保育士が送っていくわけにもいけないので、親の了承を得たらタクシーで送り届けられるとか、そういう予算が確保されるとよい。岐阜大学の保育園にはタクシーで病児保育に連れて行けるサービスがある。

事務局：診断書については、病児保育施設では、子どもの安全のために病状把握が必要であり、併設のクリニックで診断された場合は診断書は不要であるが、別の病院で診断を受けた場合は診断書を必要としている。そうした手続きの簡

略化についても現在検討中である。

委員：子どもの送迎にタクシーを利用する場合はあらかじめ登録が必要。自治体がタクシー業者と連携し、保護者が煩わしい登録作業なしでスムーズに利用できるようにしてほしい。

会長：どんどん使いやすくなるよう連携を進めてほしい。他に意見はあるか。

会長：放課後児童健全育成事業（学童保育）について、多治見市は現状待機児童はなしという認識でよいか。

事務局：令和6年度については2か所で待機児童が発生し、解消が11月末となった。児童数が多い学校に関しては利用児童が多く、空き教室も限られており、若干名の待機児童が発生している状況である。

### ● 議題3

事務局：（教育保育施設・地域型保育事業の令和7年度確保方策について 説明）

会長：以上の説明について、質問・意見はあるか。

委員：議題に沿わないかもしれないが、この場で述べさせていただく。現在可児市の幼稚園に子どもを預けている。延長保育の料金を月単位で支払い、後日市から返金されるという手続きとなっているが、延長保育の料金が少額の場合、振込手数料が高くなることがあるのではないか。もう少し円滑なシステムになれば、園や保護者の負担も減ると思う。

事務局：私立幼稚園の無償化の対応について、保護者が施設に利用料を支払い、後日市から返金する「償還払い」という仕組みとなっている。市外のため正直難しいところであるが、なるべく円滑・簡潔に進められるようにしていく。

委員：預ける保育施設が多治見市内でも、延長保育の返金は同様の手続きなのか。

事務局：同様である。

会長：岐阜市も同様である。保護者からは、都度小銭を用意しなければならないのか、PayPayは使えないのかと聞かれたことがある。市に問い合わせると、システム上不可能とのことであった。このシステムを構築したのは国なのか。

事務局：国である。一般の保育園やこども園は厚生労働省の管轄で、子ども・子育て支援制度に則っている。私立の幼稚園は厚労省ではなく文部科学省の管轄のため、同制度外である。ただし、幼児教育・保育の無償化だと、厚労省の子ども・子育て支援制度と同じ形で償還することになっており、制度が違うなかで実施しているため、こうした煩雑な手続きになってしまっている。国の管轄の違いはあれど、非常に煩雑なため、できるだけ簡素化できないか我々のほうでも考えていく。

委員：可児市だと手続きがもう少し簡単だと聞いた。

事務局：他市でも工夫しながら実施しているところがあり、我々も改善の余地が十分

にあると考える。

委員：幼稚園や保育園が増えるとのことであるが、保育士の確保についてはどうか。子どもが保育園に通っているが、園児とともに保育士の数も減ってとても大変そうであり、保護者も手伝いながらやっている状況。幼稚園や保育園が増えても手厚い保育が継続できるよう、保育士の確保と負担軽減を進めてほしい。

事務局：正規の保育士の確保と負担軽減は我々の責任である。正規の保育士を確保するとともに、今の公立の幼稚園・保育園のあり方の見直しも進めながら、保育士の負担を軽減していく。園児数が少ない園もあるが、小学校へのかけ橋としての機能を考えると、園で集団生活を身に付けてもらうのは非常に大事であり、保護者に不安を感じさせないように、あり方を見直していく。

委員：公立幼稚園では明和幼稚園がなくなり、笠原幼稚園がこども園に移行される件について。こども園はここ数年でぐっと増えてきた印象があり、ぼかぼか広場の保護者からは、こども園に入れることはとても喜ばしいとの声も聞く。幼稚園の枠で入園した後、仕事をすることを考えたとき、保育園にすぐに移行できるという利便性があるとのことを受け入れられている。子どもの立場でも、環境がさほど変わらず同じように通い続けられるため、子どもにとっても保護者にとっても良い流れだと思う。一方で、公立幼稚園を残すこともまた、小学校へのかけ橋という役目も考えると、意味のあることだと理解できる。こども園のニーズが高まるなか、今後についてどのように考えているのか教えてほしい。

事務局：現在、養正幼稚園と昭和幼稚園を統合、その後間をあけて双葉保育園と統合する方向で検討している。養正幼稚園と昭和幼稚園は園児数が少なくなっており、現在から園児数がさらに減っていくことが懸念されるため、まずはこの2園の統合を進める。場所は昭和幼稚園を考えている。その後、令和15年くらいに双葉保育園と統合してこども園化する。場所は未定である。精華愛児幼稚園は幼稚園として存続させる。このエリアは私立の保育園やこども園、小規模保育園が多い一方、保育の必要がない子ども、例えば支援を要する子どもを預けられる場所は確保しておく必要があり、保育の受け皿がたくさんあるエリアでも、やはり精華愛児幼稚園のような、支援を要する子をしっかりと受け入れ、責任を果たせるような場所が必要だと考えている。

会長：保育園・こども園は処遇改善手当があるが、公立幼稚園ではどの程度受け取れるのか。公立と私立で給与差はあるか。

事務局：多治見市では保育士も幼稚園教諭も同等に処遇改善を行っており、金額は同じである。私立の幼稚園については把握していない。

委員：養正幼稚園と昭和幼稚園の統合は、幼稚園としての統合か、こども園として

の統合か。

事務局：幼稚園として統合する。保護者の不安を最小限にするためにも、今のやり方を大きく変えるべきではないと考えており、将来的には双葉保育園と統合してこども園化するが、養正と昭和の2園についてはまず幼稚園としての統合を進める。

委員：2園の統合はいつ頃になるか。

事務局：喫緊の課題であると認識しており、早くて令和9年、遅くとも令和10年で考えている。

委員：保護者からは先が見通せないと困惑の声が聞かれる。アナウンスはいつ頃になるのか。

事務局：統合をいつ頃にするかについても、保護者の意見をしっかり聞きながら進めたい。現在の園児の減少ペースを見ると、令和9年が妥当かと思うが、保護者の理解や納得がない限り話をするべきではないため、新年度早々に課として検討を進めていきたい。

委員：私は保育の手厚さを考えて公立幼稚園を選んだ。おむつも外れておらず、私立幼稚園では受け入れが難しかったのもある。公立幼稚園が減り、こども園になっても手厚い保育を維持できるのか。

事務局：こども園になっても手厚い保育を維持できるようにしていく。さらに手厚くできるように、保育士をしっかりと確保していく。

会長：実は幼稚園よりもこども園のほうが国からの予算の枠が増える。

事務局：公立の場合は私立と違い普通交付税で措置されるので、正直あまり見えない。そうはいつても幼児保育は要の事業であるため、仮に財政的にどうかと言われたとしても、確保すべきところはしっかりと確保していく。

会長：保育はこれからおそらく供給過多になっていく。岐阜市以外ではほとんどの地域で供給過多が進むと思われるので、多治見市でも人口動向を注視してほしい。小規模保育園を今どんどん増やすと成り立たなくなっていく可能性がある。小規模保育園は2歳児でもう一度保育園選びをしないといけなくなる。「小学校まではこの保育園で」という選択肢がどんどんそちらへ流れる可能性があるため、そのあたりも気にしてほしい。

委員：支援の必要な子どものために精華愛児幼稚園が必要な存在であるとの話を聞いて安心した。土岐の教育支援センターに行った際に聞いたのが、以前は「中1ギャップ」という、小学校から中学校への進学時に適応できない生徒が多いと言われていたのが、今は「小1ギャップ」という、小学校に上がった時に適応できない子どもが増えているとの話だった。同支援センターでは、保護者、保育園、小学校と連携を取りながら支援を行っているとのこと。お金の問題はあると思うが、支援の必要な子どもの人数がたとえ少なくとも、一

人ひとり大事なお子さんには違いないので、多治見市でもぜひ、教育委員会とも連携を図りながら支援の強化をお願いしたい。

事務局：子ども支援課と教育委員会は同じフロアにあり、課長も教育委員会と兼務していて、両方で連携が取れている。同じ理念で働いていくことが大事だと考えており、今後も連携しながら取り組んでいく。

#### ● 議題4

事務局：(第3期たじみこども未来プランについて 説明)

会 長：以上の説明について、質問・意見はあるか。

会 長：「はじめに」の「特に、保育園・幼稚園の…」という部分について、こども園を入れるか、「保育施設の…」とするのはどうか。

委 員：「はじめに」の「子どもたちの明るい未来を…」という部分について、「子ども」はひらがなの「こども」にすべき。

事務局：検討します。

会 長：ここまで皆さんから意見をいただき、市にも対応してもらいつつ、100%満足とはいかないまでも少しずつ進めていくことができた。また、利用の仕方や簡素化、連携などもこれから非常に重要になってくると思う。これまでの議論を踏まえ、皆さんの感想や意見、これからの子育て支援に期待することや要望などを一人ずつ伺っていききたい。

委 員：多治見市は子育て支援センターの一時預かりのニーズが高く、どの保護者もいっぱいいっぱいな状態で子育てをしているのを感じている。こうした充実のために、こども誰でも通園制度も含めて、市と協力しながら拡充していきたい。このプランを多治見市の子どものために役立てていけるよう、微力ながら協力させていただきたい。

委 員：私立幼稚園では担任1人で運営している場合が多いが、おかげさまでここ数年は幼稚園教諭も増えて本当に助かっている。私立としては、市からの補助を充実していただけると大変ありがたい。一時預かりは幼稚園の場合なかなか難しいが、保護者の要望もあり、なんとか受け入れはしているが、その点もご理解いただけるとありがたい。

委 員：多治見市の子どもたちのことをたくさん考えながらプラン策定に携わることができた。このプランをどのように周知していくかが重要。特に本当に困っている保護者に届くようにするためには、保健センターや園の連携や周知の仕方がポイントになる。個人的な意見だが、無償化の影響もあり低年齢のうちに子どもを預ける家庭が増えているものの、育児休暇を取ってもらうなど、「この時期は子どもを大事に育てよう」という保護者を我々も支えてい

きたい。もちろん必要な方は園でお預かりする。小さいうちからすべて園に預けようという方向性ではなく、地域や関連施設皆で支えていけたらよい。

委員：病児・病後児保育について、利用者の少なさや利用しにくさについてずっと気になっていたが、今回具体的な話を聞くことができ、とても大きな一歩だと感じた。度々議論に上がっていた育休退園については、供給過多の時代がやがてやってくるということで、小規模保育園で子どもがいなくなることが心配されるなか、育休退園に対応できる場がもしかしたらここにあたりするかもしれないと思った。育休退園の解消に期待したい。また、地域子育て支援拠点の1つを運営しているが、量の見込みと確保方策のところでは3万6000人という数字を見て背筋が伸びる思いをしている。子どもが減っていくなかで、未満児の保育料の無償化が始まり、入れなきゃ損という勢いで子どもを小さいうちからどんどん就園させるという流れが見られる。そういうなかでも、いかに家で保育をしている時に親子の関係をしっかりとしたものにしていくかが重要。0歳の子どもを育てている親に、今を充実したものにしてもらえるよう、我々もできることをやっていく。来年度のBPプログラムは広場という良い環境で開催できるようになった。一人でも多くの親をつなげて、0歳の時期の子育てを楽しんでいただきたい。十分に満喫してから園のほうに旅立っていく、親も仕事をしていく、という良い流れを作っていきたい。

委員：ファミリーサポートセンターでは援助会員の確保が非常に難しい状況であるが、そのなかでも改善を進めている。ファミサポでも病児・病後児の預かりは行っているが、コロナ禍以降は担い手不足もあり厳しい現状がある。今回市で病児・病後児保育の体制を整えていくという話であったが、ファミサポとしてもありがたいと思う。祖父母も年齢が上がっており、高齢でも仕事を続けている人も多く、頼れる人がなかなかいないという声も聞かれる。とはいえ、子どもが小さいときや病気の時、自分で面倒を見たいという人も多いと思うので、企業でも考え方を変えたり、休みやすい環境を整えたりしてほしい。やはり保育士の負担は懸念されるので、そちらも改善を進めてほしい。こども未来プランの中には「切れ目のない支援」と何度も書かれている。妊娠から子どもが大きくなるまでの支援を切れ目なく行っていくということだが、支援の内容が複雑になってきており、情報共有が難しくなっていると感じる。子どもたちが安心して成長でき、子どもたちに寄り添うような家庭を築くために、情報共有をしながら支援を行っていったらよい。

委員：子ども110番の対応を早々にしていただきありがとうございます。病児保育について、かねてよりいろいろなことを意見してきたが、先日保育士をしている人に病児保育について聞いてみると、「自分の子どもが熱を出したと

きに気兼ねなく休める環境を増やすことが大事かもしれない」とのことだった。やはり誰かにお願いするばかりではなく、自分たちも環境を作るという考えがまず必要だと再認識した。市も我々も含めて、企業の働きやすい環境というのをきちんと考えていかないといけない。来年度からPTAの長を務めることになったが、そのなかで保護者の皆さんに伝えたいのが、人をお願いしてばかりではなく、自分の子どもたちは自分で育てるべきだということ。皆忙しく、共働きで難しい状況があることも承知している。しかしながら、人に投げる前に自分たちでやれることはやろうよと、これから先ずっと保護者の方にはたらきかけていきたい。この前入学説明会で、学校側からは言えないことを私たち親が子どもに伝えられるようになっていこうと、保護者の方に話をした。子どもたちが問題を起こしたとき、子どもたちは自分たちのやったことを最小限に抑えて言いがちなところがある。怖いから、自分のやったことはなるべく言わない。なので、例えば子どもが今日友達とトラブルがあったと言ってきたときに、まず子どもの話を受け取り、その後にその友達と2人で話をする場を作るように、家庭のほうでお話をしてほしい、それでも難しいと判断したら先生のを借りてください、と話をした。そうしたら校長先生が涙目でありありがとうございますと言ってくれた。私も保護者から子どもがいじめを受けたと相談を受けるが、いろいろ調べていくと、結局思い過ごしや勘違いだったり、少し謝れば済むことだったりする。しかし保護者が過剰に反応し、保護者同士の関係、保護者と先生の関係、子ども同士の関係を壊してしまうことがある。最終的に教育委員会に訴えるという動きも多く、私はまず保護者の環境を整える活動をしていこうと思っている。保護者が誰かのせいにするという環境を作ってしまうと、子どもが自分で解決する力がつかない。なるべく子ども自身が自分で解決する方法を身に付けさせてくださいということを、今後ずっと発信し続けたい。小学校や中学校のことでまたご意見いただければ幸いである。最後に、この会議の場でいろいろ意見を申し上げてきた。市側も対応が非常に難しいことは理解しているが、やはり必要なものは作っていかねばならず、意見として挙げさせていただいた。皆で力を合わせて、「多治見市ってやっぱり良いよね」とひとこと言える環境を作っていけたらと思う。

委員：一保護者として会議に参加させていただき、いろいろな立場の人からの意見を聞き、これだけの人が一生懸命子育て支援に関わっていることを改めて知ることができた。私自身、結婚して多治見市に引っ越してきて、まったく知らないところから子育てが始まった。知り合いもおらず、幼稚園にどうやって入るのか、いつ申込するのかも分からなかった。そうした情報は児童館や支援センター、そこで出会った保護者などからすべて教えてもらった。そこ

までの流れがすべて貼りだされているわけでもなく、自分から聞きに行かないと全然教えてもらえないことが多く、とても苦勞した。1年間委員として携わるなかで、あの時こうすればよかったのか、こういうサービスがあったのかと分かった反面、昔本当に必要としていた時に知りたかったと残念にも思った。年度が変わるたびに、新しい保護者が同じような悩みを抱えているので、もっと分かりやすく情報が見えるようになればと思う。

委員：小児救急医療体制について当会議で度々議論となったが、つい先日我が家でも子どもが休日に発熱し、電話したがすぐに病院にかかることが難しかった。実際に自身も体験したことで、子どもが休日に病気になってもすぐに対応してもらえるような環境を整えてもらいたいとより感じた。病児・病後児保育については、私も登録はしたが、利用しにくさを感じ、結局使わずじまいだった。今後利用しやすくなっていくことに期待したい。

委員：私は生まれも育ちも笠原であり、皆顔見知りという環境で過ごしてきた。養正幼稚園も人数は少ないが、少ないなりの良さがあると感じ、長年お世話になっている。狭いなりに、保護者も関わり合いながら幼児保育をしていこうという意識が強いため、保護者同士のコミュニケーションも多く、そのおかげで、それぞれの家庭で親が子どもに目が届きやすいというのを感じる。今後形は変化していくと思うが、そうした幼稚園の良さが皆に伝わればよいと思っている。保育園やこども園がいいという話も聞くが、幼稚園の良さも伝わっていくとよい。保育士の確保については、保育士をやりたいという声は周りでよく聞く。しかし、専門の学校を卒業しないとなれないのか、更新は切れているけれど教員免許は持っているので活用できないかといった、保育士になるための情報を知りたいという保護者がちらほらいる。自分が子育てをしてきて、仕事としても子どもたちに接してみたいという声も聞くが、どうしたらいいのか分からない。保育士の求人は目にするけれど、保育士の免許を持っていないので躊躇してしまうという声も聞かれる。保育士になりたいという保護者は少なからずいるので、そうした眠っている需要をすくい上げてもらえたらと思う。子どもの頃は教育を受ける立場だったのが、大人になってこうした会議に参加させていただき、これだけ考えられて物事が動いていることを知ってすごく驚いたし、多治見の子どもは幸せだと思った。こうした多治見市の環境で子どもを育てられることは幸せだと、より思えるようにしてもらいたい。最後に、子どもが丸一日過ごせるような複合型の大きな公園を作ってもらえるようお願いしたい。

委員：10年以上前は子育てに関する情報がそこまで入ってこなかったが、今は子育て支援事業はここまで考えられているんだなということを、当会議を通して知ることができ、ありがたく感じた。他の委員の話を聞き、親が子どもに

関わることはとても大事だと改めて思った。園に預けるだけでなく、親が子どもをしっかり見ていくことが大切だと私も思う。親が仕事中心で、子どもを保育園等に預けがちにすることが、子どもの不登校の原因になったりするのだろうか。もちろんそれだけではないだろうが、不登校は多治見市でも今問題になっているので、親が子どもに関わるということをしっかりやっていたらと思う。また、放課後等デイサービスについて、金額面でも皆平等に利用できるような環境を作っていただけるとありがたい。

委員：少し視点を変えて提言してみたい。私は多文化ソーシャルワーカーとして、外国人の支援を行っている。多治見市はそこまで外国籍の子どもは目立っていないが、街中やスーパーで見かけることはよくあり、多治見でも外国人は少なからず生活していることが分かる。愛知県は全人口の4.3%が外国人住民で、岐阜県は全人口の3%にはまだ満たないが、かなりの割合で外国人が増えてきており、昨年度は約7万人の外国人住民が生活している。3年以内に在留管理制度が変わってきて、家族帯同できる在留資格を持ち、日本で家庭を持ち子どもをうむ外国人が増えていく未来がまちがいなく来る。このことも未来プランでは、外国人に関する内容が薄いと感じる。可児市や美濃加茂市など外国人住民の割合がかなり高い市町村では先進的に取り組んでおり、多治見市も外国人住民に関して先々のことを見据えてもらえたらと思う。私は仕事で外国人の保護者と接する機会が多いが、やはり言語の壁や文化の壁、制度の壁があり、日本の社会になかなか溶け込めず孤立している保護者がいる。どこにも相談できず、ママ友もおらず、頼れる人もいない。やがて児童虐待が起きてしまったり、児童相談所にお世話になっている外国人もたくさんいる。こうした外国人行政はあまり報道されず、日本人や日本社会の中でも表には出てこないが、そうしたところも考えていただきたい。我が家は配偶者が外国人で、子どもは「自分は日本人」という意識で生活しているが、子どもなりに感じることもあり、もう少し外国人の子どもたちにも優しくできたらいよいよねという話を最近するようになった。外国人の子どもや子育て支援についても、こうした場で議論していったらよいと思う。

委員：保育士などいろいろな人の話を聞き、子育て支援における職場環境改善の必要性は承知しており、各企業で取り組みを推進していったらと思う。私はいくつかの自治体の子育て会議に参加しており、それぞれの自治体で職員さんが頑張っていて取り組んでいるし、多治見市もいろいろな面で緻密に取り組んでいると感じている。私は部活動の外部指導者やPTA役員、自治会役員などを務めてきたが、いろいろな立場で人々と接するなかで、すべてが繋がっているんだなと感じている。三つ子の魂百までというが、小さい頃に習ったことや経験したことは大きくなってからもいろいろな形で影響してくるんだ

なということを感じる。超高齢化社会でバスのドライバーが少なくなっている。ドライバーに話を聞くと、子どもの頃からもっとバスの運転手さんってかっこいいよね、配送のドライバーさんってかっこいいよね、など、パイロットみたいなかっこいい職業と同じくらいの感覚で、小学校で話をしてくれないかなと言っていた。コロナをきっかけにエッセンシャルワーカーの大切さを感じたこともあり、幼少期を含めて、エッセンシャルワーカーの仕事はこういうものだということを伝えていけたらと思う。今は YouTuber だとかいろいろな形で安易にお金さえ稼げる仕事に就きたいという子どもが増えてきている。新しい仕事はもちろん大切だが、アナログ的な仕事、本当に人の力が必要な仕事というのもこの社会には大切で、そうした職業を目指す子どもがいてもよいと思う。現在、クラブ活動をする子どもが少なくなっており、中体連という中学生の大会がなくなるのではと懸念している。去年中体連の多治見市大会がなくなり、東濃で開催された。多治見で一番になりたいと頑張っていた子が、その目標がなくなってしまった。小中学生の人数は少なくなっているが、クラブ活動が衰退することは、子どもの体力づくりに影響するのではないかと心配している。現在中津川市と瑞浪市に中京学院大学のキャンパスがあり、2027年には集約して多治見市に移転する予定である。この大学では地域の子どもたちとスポーツで積極的に交流しているので、多治見もこれを機会に、小中学生のクラブ活動も含めて、大学とうまく連携を取りながらやってほしい。市の組織としては縦割りになりがちだが、連携を取りながら、いろいろな方向で良い形にしていただければありがたい。

委員：これまで人権擁護委員やサポート校の講師、中高の教育相談員といった仕事をしてきた。そのなかで感じたのが、自分の居場所を求めて苦しんでいる人が多いということ。先ほどアナログな仕事が大切だという話があったが、人権擁護委員に相談に来る年配の方には、これまでの人生よく頑張りましたね、ご苦労されましたね、と言いたいことが多々ある。どんな仕事に価値があるのかというのは決められないものだとすることを改めて思った。私は前回のこども未来プランの作成にも関わったが、こうしたものを作るのは本当に大変で、当時は土台のないなかで進めていたので、こうして完成できたのは非常に感慨深いものがある。それに関わったことは本当にありがたい。ただし、完成したから終わりではなく、プロセスが大事。このプランにはそれぞれの物語があり、それぞれの人の思いがあるということ大切にしたいし、「未来」プランなので、これからも続けていければと思う。多治見市では「子育て」という言葉を打ち出しているが、個人的には違和感がある。子どもが自ら育つから「子育て」と言っているようだが、そうじゃないだろうと。子どもというものは守られるべき存在だし、大人が育てていく存在だか

ら、「子育て」のほうがよい。先ほど委員が、子どもの不登校は親にも原因があるのだろうかと言っていたが、そんなことは絶対はない。誰が悪いとか何が原因かというのがなくても、不登校になってしまう場合はある。子ども本人が一番苦しんでいるので、我々大人が皆で子育てをしていくことが大事である。この年になって、若い保護者さんと一緒に子育て支援について考えることができたのをありがたく思う。

委員：普段は保護者の意見を聞く機会のほうが多いが、当会議ではいろいろな立場の人の意見を聞くことができ、それぞれの立場で頑張ってくださっていることが理解できた。基本方針の「楽しく子育てできるまち」は保護者に向けて、「こどもが豊かに育つまち」は子ども、「みんなで未来につなげるまち」は多治見の将来、というように、とても素敵なものができた。いろいろな人が関わり合う多治見市で育った子どもたちが、将来社会の一員として働き、そしてまた親になっていく。そうすれば多治見市は盛り上がっていく。そのためにも、保育施設もいろいろなところで連携して支えていくと同時に、企業や社会全体で、親が親として子どもに寄り添える時間を作れるようになっていけるとよい。その愛をたくさん受けた子どもが大人になって親になった時、自分の子どもにも愛を返せるような、そんな社会を作っていきたい。保育園としても、保護者、小学校、保健センター、市の子ども支援課との連携を大事にし、今の保護者の悩みはどこで解決できるのかを考えながら次につなげるようにしたい。我々もたくさん知識がないとつなげることができないので、今回この会議で得たことをこれからの仕事にも生かしていきたい。

会長：ありがとうございます。国の幼児教育・保育については、おそらく多治見市だけでは何ともならないようなこともあると思う。同じ子どもなのに、いろいろな種類の施設がある。これは行政側の事情があるのだが、市民には使いつらくなっており、そうしたところを国も含めてどんどん変わっていかねばならない。また、子どもに関わる仕事をしていると、たとえ理想でも語っていくべきだとつくづく思う。実現できるわけがないと皆があきらめてしまっただけではない。皆が自分の環境の中で理想を言い合い、仲間を増やしていくのが大切。言って無駄なことはなく、皆さんにもぜひ仲間の輪を広げていただきたい。親の働きやすさを追求し全面に出すのは大事だが、やはり主役は子どもであるので、子どもをどのように預けられるのかではなく、どのように教育・保育を受けて育っていくかというのも、長い目で見ていけるよう、皆のチームワークで進めていくのが大切だ。発達格差を作らないためにも取り組んでいかねばならない。最後に、行政は問題が起きるたびに取り組みを増やしすぎていて、かえって1つ1つの内容が薄くなっていると思う。次のプランを考える際は、費用対効果ではないが、内容が薄くなら

ないよう大きな組み換えを行ってもよいかもしれない。これは今後の課題として挙げておきたい。

事務局：本計画の完成版の冊子は、3月末から4月初旬までには各委員の手元に届くようにする。委員の皆様におかれましては大変お忙しいなか、全4回の会議にご出席いただき誠にありがとうございました。こども未来プランは来年度からスタートするが、これからの5年間が本番となる。またいろいろな形でご意見を賜れば幸いである。引き続きよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。